

〇24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

市民クラブの谷口でございます。ただいまより一般質問を始めさせていただきます。

武雄市の図書館・歴史資料館には、本当は歴史資料館・図書館なんですけれども。鍋島茂義公、いわゆる幕末から明治にかけて、武雄市が、佐賀県が、本当に日本の国、そういうものを素晴らしい国にするために頑張った、そういう歴史をきちんと伝承する場所が歴史資料館であり、武雄市の図書館であったわけでございますが、現在この図書館の現状、そういうものについてですね、非常に、先ほども問題になっておりましたけれども、いろいろと、その資料利用の方法等、そしてまた、その図書館の現在のあり方についてのいろんな市民の意見もございませぬ。私も、そのことについてもいろいろお話をしたい。

きょう私は、ここに、これは射手筆（いてぶち）と言います。

先般、いつかも御紹介申し上げたことがあると思っておりますけれども、国際陶芸アカデミー、世界・焱の博をいたしましたときに、国際陶芸アカデミーの席に、世界中のそういう作家の人たち、関係者の方が集まられたときにですね、武雄市は歓迎の大会が、今度は文化展でありました。そのときに唐津市は、唐津の山笠、それを披露いたしましたし、武雄は武雄の誇る、伝承的な歴史的な行事である流鏝馬を、皆さんに、世界中の方に披露いたしました。

そのときに、外国から集まった、世界中から集まった方々に記念として、この射手筆をお贈りいたしました。その中で、これをどういうふうに外国語に翻訳するかということにいろいろと悩みましたけれども、射手筆という言葉は外国にございませぬので、ラッキースティック、幸運を呼ぶ当たりばと、この射手筆というですね、こういう表現でもってお送りしましたところ、ラッキースティックということで、非常に世界中から集まった方々が喜んで帰られました。

この射手筆は誰がつくるか。この射手筆、これ持っているものはですね、96歳のおばあさまがつくってもらった射手筆でございます。

私あえてこれを申し上げておりますのは何かと言うとですね、いわゆる、歴史文化の中で私たちのおりましたところの地域の方々、流鏝馬というものはですよ、1つの歴史の中で、例えば流鏝馬の騎射の行事については八並区が伝承し、そして馬場は武雄区が本当に管理をし、伝承していくと。そして、宵の祭りと言いまして、いわゆる——その前に、勅使が京都から来、鎌倉の騎射が武雄に来たときですね、その行事は、八百十数年の歴史を経ても、今なおですね、武雄市内の甘久区が伝承し、継承していただいております。そしてまた、流鏝馬の馬に乗る神事の部分については、伝統として下西山区という、いわば武雄市の多くの区がそれぞれの方が集まって、懸命に伝承活動を続けております。

大変です、朝から晩まで。

そしてまた、この射手筆にしても、みんなお年寄りの方々が昔からのそれにのっかって、こういうものをつくって、一つ一つ手作業でつくってですね、伝承していく。一生懸命頑張っているらっしゃる。

そして当日の流鏝馬についてはですね、例えば流鏝馬の馬の走る馬場についてもですね、実は武雄市の市道の問題がありましたときにですね、この流鏝馬の馬場を、執行部の答弁では、1年にわずか1カ月かそこらしか使わないから、あと流鏝馬の日までの期間は駐車場にということ、流鏝馬伝承会、保存会のほうに申し出があった。その事情を聞きたいということで、

申し出があったということを知ります。

私は、図書館のための駐車場を確保するために、伝統的にやっとなんかの思いで、今まであったものがなくなっていました、それを再建させたですね、市民のための、いわゆる伝統的な行事のための流鏝馬の道をですね、なぜそういう形の中で考えていくのかということですね。いわば、歴史、文化、伝統を大事にするための、そういうふうな武雄市の姿勢というものですね、今回の歴史資料館をビデオ屋に貸してしまった、ああいう状況の中で私は極めてですね、遺憾に思っているわけでごさいますけれども、そのことを含めまして、今回は市の考え方を承りたい。

伝統を続けてきた区の方々にとっては本当にですね、みんな集まりをしてこういう話がされている。一生懸命、歴史的なことを守っていかうと、伝統していかうと、そういう中で頑張ってきたことをですね、行政そのものが、そういうふうな一時的な便宜のために、あるいはそういうことだけのために、なんで私たちの努力を評価をしてわかってくれないのか。では、もう流鏝馬は市でやってもらおうじゃないかと。それくらいの強い意見が出て、そしてですね、その関係区はみんな集まって、市役所からの申し出を正確に待ったというのが、議会が開会された2日の日でごさいます。

その後の経過を聞きましたときに、私は極めてですね、歴史、文化、伝統的なことを本当にですよ、すばらしいまちとしてみんなが一生懸命やってきたのに、そういうことをですね、本当にこう——駐車場自体が悪いとは言いませんけども、もっとほかの方法はなかったんだろかということの中で、あえて、まず冒頭の質問としてこのことをお尋ねをしたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長（発言する者あり）

○樋渡市長〔登壇〕

うそ、でたらめとまでは言いませんけれども、それに近いものがありますね。

まずですね、我々は何を言いたかったっていうと、図書館もそうなんですけれども、さきの議会答弁で、要するに、本当にあそこが混雑をして、実際市民生活まで支障がきてる、というところにきてるんですね。

ですので緊急避難的にね、どうしてもかぶさるところというのがあるんですよ。物すごく多く来るところがあって、だから、さきのゴールデンウィークのときには7,200人ですよ、1つの館に。

ですので、そういったことになる、先ほど申し上げたとおり、物すごく市民の生活に負担・荷重がかかるわけですよ。そうしないように、あるピークに達するときは緊急避難的に貸していただけないでしょうか。

40台とめられるんですね。この40台とめられるだけでも、全くやっぱり違うんですよ。

ですので、あたかもね、駐車場に変えるかのごとくね——それで卑怯なんですよ。駐車場自体は悪くないって、また言い訳しているじゃないですか。卑怯ですよ。

ですので、駐車場についてはね、私もやむを得ず、市民生活を考えたときに緊急避難的に貸していただけないでしょうか、ということです。

それと、これは市の持ち物でありますので、市が責任を持って、やっぱりこう説得する立場にもあるわけです。

そういったときに、我々が今度危惧しているのは、今、伊勢神宮の話も出ました、伊勢神宮とか考えたときに、今、物すごく神社参りっていうのがブームになっているんですね。

そういったときに、我々が今一番恐れているのは今度の元旦です。武雄神社なったときに、武雄市図書館以上にね、物すごく今、人が、武雄は今もう物すごく勢いがあるっていうふうに言って。私が聞く限りね、飛行機の中で聞いたんですけど、武雄市の勢いにあやかりたいって言う方々もいらっしゃるんですよ。

ですので、そういった方々を考えたときに、また——なんて言うんですかね。

駐車場があふれて道端になると、これはまた事故とかの危険性がありますので、これもやむを得ず貸してくれないでしょうか、ということをお願いした次第であって、かつ私も、内々ではありますけれども、そこの相談に行った方々に話が、後で私のところにありました。その先方からあったときに、これは市には協力しますということ。これが会としての総意かどうかはわかりませんが、市が言っていることについては理解をする、ということになってますので。

議論というのはいろいろあるんですよ。真っ黒というのはないんですね。ですので、そこを調整して検討するというのがね、我々行政の、責任ある行政の立場だと思っています。

もとより、これをやるからといって、文化の振興とか文化の伝承とかっていうのをないがしろにするつもりは全くありません。全くありません。

それと、失礼ですよ。カルチュア・コンビニエンス・クラブをビデオ屋とかって言うのは。

あのね、本当にね、失礼きわまりないです。もう本当にね議員たるものが、本当に一生懸命ね、CCCの皆さんたちは頑張っておられますよ。頑張っておられるのをビデオ屋というふうにおっしゃってね、否定するような文言についてはね、これは議員の風上にも置けないと、このように思います。（「失礼」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

えらくまた、市長も失礼な人ですね。腕組んで聞くんですか、私の質問を。

〔樋渡市長「うん」〕

そうですか、そうしておきなさい。

ああいう市長なんです。私に言わせると。（笑い声）

私が申し上げたいのはね、地域の方々が一生懸命、必死になって大事なものだから守ってきたものをですよ。

大体、考えてごらんください。あそこはあなたは御存じがないでしょう。あの一の鳥居からですね、向こうは神社の参道だったわけですよ。ところがね、あそこは武雄神社の前に県道ができたためにですよ、あの馬場がつぶれて、そして、しかし、公共のためにあの参道が拡がったためにですよ、実はいびつな形になっているわけですよ、県道ができて。（発言する者あり）だから、例えばその行事のためにですね……（発言する者あり）本当は広い場所があって、馬が走る先のほうはいわゆる田んぼだったわけですね。射手塚があつたりして。そういう昔のことは、私全部知っていますから。（発言する者あり）

そういう状況の中で、なんとかしてそれを今まで残して、馬場をつくりたいという願いがあって、そのときにきちっとして、そのために武雄神社はですね、あの参道をですよ、市に提供したために道が今、市道ができてそういう形になっているわけですよ。だから市の土地だからって言って、それは今、市の土地になっただけですよ。（「ポケットに入れて質問すつとや」と呼ぶ者あり）そこらをですね、考えながら……（「ポケットに手入れて、質問するのか」と呼ぶ者あり）気合い入れて、手を振り上げたいんですよ。だから抑えているわけ。（発言する者あり）あなた、黙っておきなさい。

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○24番（谷口攝久君）（続）

私が申し上げているのはね……

〔樋渡市長「ポケットに手入れて質問するんですか」〕

それからビデオ屋の……

〔樋渡市長「失礼ですよ」〕

あなたに対して私は、話しているんですよ、聞きなさい。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに、静かに。質問。

○24番（谷口攝久君）（続）

どうですか。もう、やらせるならあと30分続けてやりますよ。（発言する者あり）

市長のその態度がですね……

〔樋渡市長「どこが態度なんですか」〕

文化とか歴史に対する……

〔樋渡市長「ちゃんと聞いてますよ。失礼じゃないですか。」〕

○議長（杉原豊喜君）

市長。市長、静かに。市長。

○24番（谷口攝久君）（続）

流鏝馬の問題についてはですね、私も本当に今までの間、これも合わせると、（発言する者あり）資料もつくりました。一生懸命、頑張っていますよ。みんな本当に、お年寄りの方々も本当にですね、一生懸命つくられたこの射手筆。この……（発言する者あり）あなたはわからんで、市長に聞かせているんですよ。（笑い声）

こういうふうな形の中でつくってきたということをですね、そういう思いがあった文化を伝承しているわけですよ。（「向こうにいわんが、向こうに」と呼ぶ者あり）

君は何を言うか、失礼な。

○議長（杉原豊喜君）

静かに。やじには応酬しないように。（発言する者あり）やじには応酬しないように。静かに、静かに。

○24番（谷口攝久君）（続）

やじに注意しなさい。（発言する者あり）しっかり聞きなさい。

○議長（杉原豊喜君）

静かに、静かに。質問者はやじに応酬しないように、質問を。

○24番（谷口攝久君）（続）

私が申し上げているのはね、例えばそういうふうなことについて——笑いながら聞くんですか、市長は。恥ずかしいよ、本当。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに、静かに。（発言する者あり）私語を慎んでください。私語は慎んで。静かに。

○24番（谷口攝久君）（続）

いいですか。

○議長（杉原豊喜君）

質問を続けてください。

○24番（谷口攝久君）（続）

はい。（「あそこは図書館だけじゃなくて、ゆめタウンのできたときに、あわせてそれをつくらうってなって、図書館だけのせいじゃなかよ」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○24番（谷口攝久君）（続）

あの人に質問させなさい。（笑い声）

私が言うのはですね、結局、そういうふうな文化的なこととか伝承的な部分について、一生懸命やっている皆さんのことがあると。だからそれについてはですよ、やはりね、例えば競輪場の第2、第3駐車場もあるんですよ、緊急避難的にするには。

そして流鏝馬のときに、人がいっぱい集まったときは、やむを得ないから、どうか1つ図書館には駐車できないからですね、駐車場をゆめタウンに貸してくださいと。そういうお願いを、保存会、私たちまで行ってして、一応協力してもらってやってきたわけですよ。

そういう状況の中で——私、後でね、これ写真撮ったの見せますけど、例えばその場所を駐車場にした場合どうなるかということを考えますと、今の図書館・資料館でもですよ、何て言いますか。マナーが悪いですね。見に来た人の。（笑い声）

例えばせっかくですよ、流鏝馬の馬場に植栽をしてあります、植栽を。だから、植栽してある、植木が、木がですね、枯れないように前向きに駐車をしてくださいということをお願いした。3つも4つもしてあるんですよ。後でちょっと、出しましょうかね。

〔樋渡市長「質問してくださいよ、質問を」〕

これも質問の中に入っているんだから。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○24番（谷口攝久君）（続）

だからそういうふうな状況の中で、もしですよ、あのせっかくつくった馬場が、そういう駐車場にしたときに、前向き後ろ向き狭いんですから、必ずどっちかの植栽の植木が枯れるわけですよ。（発言する者あり）

それを図書館のそういうふうな状況の中で、もう今はそうなんだから。

それも前に指摘しておりましたけれども。

じゃあ図書館のそういうふうなものの管理は誰がするんですか。CCCですか。その点をまずお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

答弁までいいですか。

〔樋渡市長「はい」〕

はい、樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まずですね、今回神社のあの参道の話です、我々の中で調べてみたときに、また、うそでたらめですよ。

先ほどちょっとやじの一部でもありましたけれども……（「一部」と呼ぶ者あり）やじの一部ですよ。一部でもありましたけれども、あれは、ゆめタウンさんが進出するにあたって、それと総合的に勘案してね、なったっていうふうに、我々も一応調べて、なっているということなんです。なにも図書館だけの問題じゃないんですよ。全体の武雄市民の福祉の維持向上のための交通政策として、あそこを総合的に勘案してなったということでもありますので、なんか全部、みそもくそも図書館ということについてはね、僕本当にいかなものかと、やっぱり思いますよね。

さっき、マナーが悪いということに関してね、いうこともあるんですけども、それについても、それは御指摘は甘受したいと思います。確かに私も見に行つてね、後ろ向きのところがあつて、そこで植栽がこう枯れているっていうのもあるんですけど。これはもう1回、ちゃんと注意喚起をしたいと思います。

ですので、車だけじゃなくて、議論もぜひ前向きにいきましょう。どうもすみませんでした。

（笑い声）

ですので——もうお昼になりましたので、この辺にさせていただきます。（笑い声）

〔24番「議長、昼も続けさせてください。」〕（「何で」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

質問の途中ですが、議事の都合上、1時20分まで休憩をいたします。

〔24番「中途半端になる。反論して……」〕

休 憩 12時00分

再 開 13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

先ほど、午前中から、いわゆる武雄の文化遺産、あるいは伝承的な芸能、伝承的なものについてです、いわば市民の考え方等について、る質問をしてまいりましたけれども、ちょっとこの点については後ほどに譲るといたしまして、次の質問に移らせていただきたいと思います。

今年の夏にですね、九州国立博物館で、武雄蘭学の世界ということで大きなイベントがございました。その中で、武雄が誇る、歴史的な、文化的な遺産として、武雄の蘭学の問題について、本当に国立博物館でイベントがありました。

それまで、武雄の歴史資料館・図書館で、蘭学館で展示されておりましたそういうものを、本当にすべてはございませんけども、国立博物館で展示され、説明を行われました。本当に素晴らしい催しであって、特に私たちは、この国立博物館で展示された歴史、武雄の歴史的な遺産、そして文物、そしてまた、その中に来られてる市民の心というものをですね、図書館がCCCに委託になった後、確かに、人間が増えた、何万人が集まったということですね、市長はいろいろおっしゃいますし、また事実、人も集まっています。

ところがその一方で、それを委託をするときに、歴史資料館にはだいたい何人が、人が来るんですかというような感じの説得をなさったような感じがいたします。しかし、それだけ何万人の人が武雄の図書館に見えるならばですね、私は、その武雄が誇る国立の博物館ですらですね、もう本当に、衰残の眼で他の市町村の人たちが見ていただいた武雄のそういう歴史的なものについてですね、その人数がもし、蘭学館にみんな展示されておったら、もっともって認識を、武雄にさせていただいたものだと思いうんですよ。

しかし、先ほど、その歴史資料館がですね、実はビデオ屋さんになったということをやったら、非常に市長が反発されておりましたけども……（発言する者あり）私は通常ですね、私はCCCの——あそこは何か、TSUTAYAですか。朝日にある、あそこにもビデオを借りにいきますよ。ビデオ屋さんと言いますもんね、通常。私だってそう言います。（発言する者あり）

しかし、あえて歴史資料館をそれまでにして、ビデオのそういうふうな貸し出しの場所にするということ自体にですね、私は、非常に残念な気持ちを持つとったわけでございますけども、契約期間は5年間ちゅうと、5年後にですよ、その分だけ返してもらってという考えはないんですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、一切ありません。私どもとすれば、今の利活用について、私どもがどうこう言うよりも、利用者の皆様方が、例えば、今年の3カ月後のアンケートで、83%の皆さんたちがこの図書館はすごくいいということをおっしゃった。それと、70%強の利用者の皆さんたちが今の図書館サービスについて満足をしているということからして、今の私どもの図書館、あるいは歴史資料館の行っていること、すわなち、歴史資料館の場合は、例えば、今までさまざまな展示も行ってまいりました。武雄の蘭学についても行ってまいりました。そういったことが、非常に、いろんな課題はあるにしても評価をされているということでもあります。

今まで、これは吉川里己議員さんから、再三に渡って、数字も上げて御指摘があったように、旧蘭学館の昔のままに戻せというような意見というのは、恐らく出てこないというふうに思っています。一部の方からはあるかもしれませんが、多くの市民の皆さんたち、利用者の方々から、そういった意見は、少なくとも私は聞いておりません。ですので、それはやっぱり民意

を大切にするっていうこと。それと、何も武雄の蘭学について、私もないがしろにするつもりは全くありません。

そういった中で、私たちは、展示と保存というのを2つに分けて考える必要があるだろうと思っていますので、展示については本物を、ああいう、昔の蘭学館にあったようなレプリカじゃなくてね。本物をちゃんとした保存状態のまんま、企画蘭学展示室で御覧に入れるということ。

それと、今までの保存の、本当によかったかどうかということも含めて、場所のあり方も含めて、きちんと、それはしっかりしていく必要があるだろうと思っています。

ですので、私は前の図書館があまりにも中途半端だったと思います。複合施設っていうのは、得てして中途半端になりがちです。ですので、私はその反省点も踏まえて今の図書館にして、しかもそれは、議会で、広範の予算の御審議も踏まえて御議決をいただいたと思っていますので、議会からも支持をされ、そして多くの皆さんたちからそういった支持をされていますので、そういった今までの流れを、私自身としては変えるつもりは一切ありません。

それとなおかつ、その間に、市民の皆さんたちから、利用者の皆さんたちから、「いや、ここはこうしたほうがいい」ということについては、今どんどん修正をしていってます。修正をしていってますので、その民意というのは大切にしていきたいと思っていますので、あんまりもう——何て言うんですかね。図書館というのは、あまり後ろ向きな話じゃなくて、前向きにね、こういうふうにしていこうよという話。ですので、私はそういった議論にはしっかりと乗っていきたいなと、このように思っています。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

私が今申し上げているのはですね、現状の、現在の図書館の蘭学館を、そのまま、きょう、あす、そうするというのを言っておるわけじゃないんですよ。第1回の契約期限のときに返してもらって、いわゆる今も申し上げるようなことにする考えがないかということを私は申し上げているわけです。

〔市長「ありません」〕

正式に、あぐら組まんで、いや手を組まんで、立って、もう一遍言ってください。

○議長（杉原豊喜君）

先ほど、ありませんという答弁はありました。

○24 番（谷口攝久君）（続）

いや、もう一遍聞いたんです。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ポケットにね、手をつっこんで、本当に上から目線でおっしゃる議員さんから言われたくないんですけれども。

すなわち、私は自分の意志として、今の、先ほど申し上げましたように、83%の皆さんたち

から高く指示をされている。そういう図書館のあり方を、私の一存で変えられるようなものではもうありませんので、そういった意味では、私は民意を受ける。

それと、私自身の考えとして、今のCD、DVDのコーナーをね、蘭学館にどういう形であっても戻すということは考えられないですし、あそこの旧蘭学館の部分というのは、非常に、本物を保存するには、あまりにも何も考えてない施設であったということ。

それと、もう1つが、これは吉川議員からも御指摘があったように、ほとんど人が来ないところに中途半端なレプリカを置いて、みんな本物志向が強まっていますので、それは違う場所できちんと展示をすべきだと、認識に立っております。

重ねてではありますけれども、私自身の考えといたしまして、5年間の契約が切れたときね、仮に、次がどこになろうとしても、これを蘭学館にするという考えは一切ございません。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

一切ないということを聞いた上で、あえて今から質問を重ねます。

この蘭学館にはですね、今まで、一つの例ですけれども、鍋島茂義公のいろんなことについても、いわゆる資料がありました。鍋島茂義公の歴史的なね、日本の夜明けをつくった人たちです。それが武雄の、いわゆる、いわば先人です。

そういう人たちをですね、素晴らしい活躍、あるいは活動、あるいは物、史跡、実績。そうした足跡。そういうものをですね、教育の中で生かすちゅうことになる、そういうものについてですね、教育長はどういうお考えですか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

これまでもお話してまいりましたけれども、先人の業績、あるいは文化歴史等については、これまでも、学校教育の中でも、あるいは文化行政の中でも生かしてきたつもりでございます。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

今の教育長の答弁ではですね、確かにですよ、みんな等しくそう、そういう気持ちだと思いますけれども、例えば、先人の果たしてきた役割、いわゆる足跡というもの。そして、そういうものについてですね、やっぱりふるさとの誇りとして、あるいはそれが、いわば子どもたちの一つの大きな夢へとなって、つながっていくんじゃないかと。そういう気持ちでですね、やっぱり教育の中でやっぱり生かしていただきたいという気持ちは、また気持ちとしては一緒だと思います。武雄にあるんですからね。ないものを持ってきて言えというんじゃないくて、あるものがなぜ、きちんと展示をされてできるような状態に置かれなにかということを私は申し上げているわけですよ。

そこで、一つの、ちょっと気分を変えた話をしましょう。

鍋島茂義公の言葉の中に、人間は——、文書の中にありますよ。「人間は一生のうちに多くの物

事に取り組む」と。そしてまた、「たとえ長生きしてもその取り組んだ仕事が少なければ」ですね、早く死んだ、早死、「早く死んだのと全く同じである」と。「いたずらに馬齢を重ねるのはいかがか」というふうなことが、茂義公が言ってあるわけですよ。

ところがですね、初代の市長の中野敏雄さんが、いわゆる「馬齢また佳し」という本の中にはですね、これは先人の書いた本ですよ。「馬齢また佳し」という本の中にはですね、本当に一生懸命生き抜いてくる、そのいわば、なお歳をとっても、なおやっけていく、そういうものの中にですね、私は、いわゆる馬齢を重ねたけれども、そのことについては、一つの思いがあるんだということですね、この中野敏雄さん、初代の市長は申し上げております。言われております。今の市長はどうおっしゃるか、今から聞くわけですけども、そういうときの中ですね、実は政治的ないろんな事例がありました。

今の樋渡市長は、いわゆる——あそこは何ですか。シンガポールとかいろんなところに、外遊もされますし、いろいろお仕事がある。

ところがね、中野さんが初めて遠くに行かれました。そのとき、ブラジルに行かれたんですよ。そして、予定より5日ほどですね、どうしても遅くなって、帰ってこれない事情が出てきたと。

そのときにですね、武雄の議会は、捜査願いを警察へと大騒ぎをしたことがあるわけですよ。そのときに、帰ってきた中野市長は何と言われたかということですね。「いやあ、御心配をかけた」と。いろいろとですね、ブラジルの武雄なり、佐賀県から行った方々が、「ぜひ一つ、私たちの生き様を、どうして頑張っているかを見てほしい」と言われて、そこに回られたんです。そのことはいいんですよ。

そして、その後ですね、言われた言葉がですね、とにかくユニークでしたね。議会の答弁で、もう集中的な質問、攻撃があったんですけども、そのときに彼が言ったのはですね、中野敏雄いわく、「なにしろ地球の裏側に行っただけですから、皆さんのお声が、せつかくお待ちになっている声が届かんでごめんなさい」と、こう答弁された。

それじゃあね、武雄市議会、何も言えなくなって、「いや、よし頑張ってきた成果を示してほしい」ということで、議会がまたスムーズにいったということがありました。(発言する者あり)

私が申し上げるのはですね、いわゆる、今の樋渡市長にどうこう言ってるわけじゃないですよ。そういう先人の方もいらしたという話を、今、しているわけです。この間の国立博物館におけるですね、シンポジウムの中で、例えばですよ、その中で国立科学博物館の鈴木一義館長さん。あるいはまた、大分大学の……

[市長「これ、一般質問じゃないんですかね」]

鳥井教授。そしてですね、九州大学の中野三敏教授。これは、先ほどの申し上げました、中野敏雄さんの三男で、九州大学の名誉教授でございますけども、その方がですね、実は、武雄の歴史、鍋島のこの蘭学館に今まであった、いわゆる武雄の蘭学についてのシンポジウムの中の講師として話されました。その講師と素晴らしい話をされましたそのメンバーの中にですね、実は武雄の蘭学館の川副学芸員の、そういう基調演説もあったわけです。

そんなにして、一生懸命みんなですね、武雄の図書館・資料館の問題、学芸員を含めてですね、一生懸命頑張って、そして武雄の素晴らしいことについて、どんどんどん、いろんな

ものを歴史的な資料の中から研究し、勉強——出していただける。そういう状態の中ですね、私は、あのときあの人たちが、一生懸命仕事する場すらね、本当に事欠くような状況にあるということはね、必ずしも私は、武雄にとってプラスになることじゃないと私は思うんですよ。そういう点について、教育長どう思われますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

〔24番「市長に聞いてないですよ、私。教育長に聞いているんですよ」〕

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとごめんなさい、1点ちょっとお伺いしたいんですけど、もし差し支えなければお答えに願いたいんですけども。

先ほど、九州国立博物館で武雄の蘭学展がこうあったということは、私も行きましたし、それはいろんな報道されて、高い評価をいただいているということは、私としてもありがたく思っていますけども。先ほどちょっと、お伺いすればよかったですけれども、その中で、蘭学館からいろいろ持っていかれたということをお聞きします。いろいろって、何でしたっけ。ぜひ、まずそこを、御質問されるのであれば、その中身をお伝え願えればありがたいと思います。いろいろというのは何でしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

蘭学館から貸し出したをしたですね、資料ですかね、国立博物館にお貸した資料については、教育長に聞いてください。教育委員会が所管して貸しているわけですから。

〔市長「いやいや。あなたがいろいろって言ったじゃないですか」〕

いろいろですよ。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これ教育委員会に聞くのは筋違いだと思います。いろいろ持って行かれたというふうには、さっき私も速報のやつを見ました——速報の速記録を拝見しましたがけれども、いろいろとおっしゃった。そのいろいろというのは何でしょうか。教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

私は、手元に目録がありませんので、休憩してもらったら調べておきます。

〔市長「中身もわからんで質問するとね」〕

何で。

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○24番（谷口攝久君）（続）

中身がわからんじゃない。確実に、皆さんに教えたいから言っているわけでしょう。

〔市長「嘘ばかり」〕

しばらく休憩してください。執行部だって答弁できないときは休憩するでしょ。

○議長（杉原豊喜君）

できません。それは私が決めます。

○24番（谷口攝久君）（続）

休憩してください。

○議長（杉原豊喜君）

何のための休憩ですか。（発言する者あり）

○24番（谷口攝久君）（続）

休憩を求めているわけですよ。資料を出すんですよ。

○議長（杉原豊喜君）

誰が資料を出すんですか。

○24番（谷口攝久君）（続）

市長が質問を聞いているから。（「一般質問には関係ない、そんなのは」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

質問に、ぜひとも、この資料がなければ質問できないという状況ではないので、休憩はいたしません。

○24番（谷口攝久君）（続）

いや、答弁できんというから聞いてあるんですよ。

○議長（杉原豊喜君）

休憩いたしません。質問を続けてください。（発言する者あり）

○24番（谷口攝久君）（続）

失礼な。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。質問を続けてください。

○24番（谷口攝久君）（続）

武雄の大宝寺。わかるね。蘭書関係。そういうのもですね、出ておりました。

〔市長「出てません」〕

出ておりました。

〔市長「嘘ばかりです。やっぱり嘘です」〕

嘘、嘘と言うからですね。聞いてください。

〔市長「いや嘘です」〕

○議長（杉原豊喜君）

答弁を求めているんですか。

○24番（谷口攝久君）（続）

答弁求めている。知らないというんですよ。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱりこう、思いつきと嘘だったんですね。

〔谷口議員「なんて失礼な」〕

蘭書関係は一切出ておりません。蘭学館から出たのは、大砲の3つだけでございます。蘭書については一切出ておりません。ですので、やっぱり、もう何も調べることもなく、こうやって思いつきのまま、いろいろ出ているということで、市民の皆さんたちに、こう見ている方々に誤解を与える表現というのが、ここでも垣間見れたなど、そのように感じております。やっぱり、ポケットに手を突っ込んでお話しをされる方かなというふうに思いますね。

○議長（杉原豊喜君）

24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

私はですね、憤りを抑えるために手をここに置いたんですよ。今は外しています。

もちろんね、例えば大砲置いたことは知っているじゃないですか。知ってて、何で聞くんですか、私に。（発言する者あり）あえて、多分言われると思うから。大砲だって……（発言する者あり）何門あるんですか。

いわゆる、いろんなね、蘭学関係の資料等も出ているんですよ。展示してあるんですよ。

〔市長「出ていませんよ」〕

何がですか。

〔市長「蘭学館から出てないじゃないですか、1個も。」〕

だからね、議長。こういうことを、私を嘘つき呼ばわりされたら嫌ですよ。議会も調査をして——いや、記憶の違いがあるかもわかりません。それから、資料も全部ね、提出せろと言われてれば、図書館から持って行って貸してあるわけですから。その資料をね、いわゆる図書館の担当からですね。（発言する者あり）それを、資料を出してもらって、議会ではっきりしてもらおうじゃないですか。そうじゃないですか。そうせんと、議会で議員がね、嘘のことを言って質問したと言われたら嫌ですよ。議会全員の権威に関係しますよ。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

叩かないでください。テーブル叩かないで。

○24番（谷口攝久君）（続）

いや、私の気持ちですよ。

○議長（杉原豊喜君）

テーブルは叩かないで。

○24番（谷口攝久君）（続）

何を叩くんですか。（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

調べてですね、谷口議員。調べてですね、調べて、もしあれがあったら、あしたまで一般質問がありますので、その中で報告と。

○24番（谷口攝久君）（続）

いや、もう進まんじゃないですか。進まんじゃないですか。じゃあ、執行部が答弁できるときは、資料は明日までじゃなくて、暫時休憩をお願いするじゃないですか。何で議会だけできないんですか。

○議長（杉原豊喜君）

資料がなかったら一般質問ができないという場面はですね、暫時休憩をしてでも資料は提供します。

○24番（谷口攝久君）（続）

それはなくてもいいんですか。市長があんなことを言っているんですよ。

○議長（杉原豊喜君）

それがなかったら質問できないわけ状態じゃないでしょう。

○24番（谷口攝久君）（続）

議会が嘘言っているようなことを言っているんですよ。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

ですから、一般質問を続けてください。

○24番（谷口攝久君）（続）

これが一般質問ですよ。私の。

○議長（杉原豊喜君）

そしたら続けてください。

○24番（谷口攝久君）（続）

大砲だけでいきましょうか、そしたら。その大砲を持って行って、そのことについていろんなものを、学者さんの方がいて、シンポジウムがあったと。これについては、そのメンバーの名前もコピーをしてもらいました。そして、持ってきていますので、私は嘘を言いながら、質問する気は毛頭無いですよ。だから、そうだけで、例えば、蘭書の資料はどういうのがあったのか。どれを参考にされたかちゅうことについてですね、その資料をもらってからしか、今は報告できませんので、時間をください。歴史資料館のほうは知ってますから。それを言ってるのが何がいかんのですか。（発言する者あり）かみ合わんのがいかんなら、それを出さないかんでしょう。

○議長（杉原豊喜君）

その資料がなかったら、一般質問がどうしてもできないというのなら資料は必要ですけども。

○24番（谷口攝久君）（続）

あとは聞かないと言っているじゃないか、市長が。嘘を言っているというじゃないですか。（発言する者あり）どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

一般質問を続けてください。疲れました。（笑い声）

○24番（谷口攝久君）（続）

疲れたんですか。

○議長（杉原豊喜君）

疲れました。

○24 番（谷口攝久君）（続）

私も疲れますよ。あんなわからない人に説明するのは。

それじゃあですね、次のを言いながらね、あとちょっと、恐らく、執行部いますから、何を持っていったかってわかるでしょう。文化課長だったらすぐ調べてくださいよ。真実を明らかにして、しようと思うから、私さらけ出して話をしてるわけですよ。すぐ取りかかってくださいよ。（発言する者あり）

次にいきますけども。実はここにですね、ここに鶏が描いてあります。この鶏についてですね、これは子どもたちが描いた絵です。4本足の鶏です。それについてですね、教育長、感想を聞かせてください。学校の図書の中にあります。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

質問いいですか、質問。答弁できますか。いいですか。（発言する者あり）

○浦郷教育長〔登壇〕

感想ということですので……

[24 番「そうです」]

これは、渡辺先生から見せていただいたときに、しっかりお話は聞いたんですけども、子どもたちの観察、あるいは普通の感覚等々をですね、話題にして話していただいたことを覚えております。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

いや、大変ぶしつけな質問になりましたけれども、教育長ならわかってもらえると思います。

この中にですね、教育に関する重要なものがあるわけですよ。きのうから、いわゆる——何ですか。機材を活用したですね、反転教育とかいろんなものについて、素晴らしいですね、一つの教育の考え方、進め方についてお聞きいたしましたけれども、いわゆる私たちの武雄にはですね、例えば、これ4本足の鶏。鶏は2本の足ですもんね、だいたい。だけど、4本足の鶏っていうのをですね、子どもたちの、いわゆる絵ですね。これは——失礼します。

西川登小学校の3年の子どもさん、その当時です、描いた当時。岡村さんという子どもさんですけども、岡村君。（発言する者あり）

この絵に表現されている鶏は、足が4本あると。色はくちばしと同じ肌色を使い、輪郭を赤で取っております。なぜ4本もつけたかは、初め2本つけていたけども、あとの2本をつけなければ、どうしても鶏が倒れそうになる。かわいそうだと。だから、4本をつけた4本足の鶏を作品として出しておるわけですね。

そしてまたですね、丸く小さい緑の玉のようなものが描かれておりますが、これは野菜であって、器までも緑色に塗りつぶしてしまっています。斜線は網で、最初、黄土色で書いていたが、思うようにはっきりしなかったんでしょう。自分の一番嫌いな色である黒を使ってまで、その絵を塗っています。バックは黄色で、画面の外側は青を使い、それはペンキのような塗料を塗ってあるんだそうです。

当時、図工の先生であった渡辺泰邦先生が、その絵を取り上げてですね、本当に子どもの感性和温かさっていうんですか、そういうものを取り上げて、4本足の鶏っていう本に出されました。そのことにですね……（「個人の名前ばそがん出してよかとや、」と呼ぶ者あり）

〔市長「議長、ちょっと問題ですよ」〕

○議長（杉原豊喜君）

いや、ちょっと待ってください。

○24番（谷口攝久君）（続）

いいんですよ。これはですね、許可を受けてます。（「誰に」と呼ぶ者あり）

本を出版した人に聞いたんですよ。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かにしてください……

〔市長「誰ですか、誰に許可取ったんですか」〕

○24番（谷口攝久君）（続）

そういうですね、子どもたちの温かい気持ちをですね……

〔市長「これ問題ですよ、これ」〕

○議長（杉原豊喜君）

議員、以前から言っておりますけど、固有名詞を使うときには、そこら辺は注意して。

○24番（谷口攝久君）（続）

注意したから……

○議長（杉原豊喜君）

お願いしたいと思えますよ。

○24番（谷口攝久君）（続）

いいですよ。

○議長（杉原豊喜君）

そして、冒頭に言いました、市政事務に対する一般質問ということで、4本足の鶏を見てどう思うかというようなことではなくして、市政事務に対する一般質問をしてくださいよ。

○24番（谷口攝久君）（続）

議長。少し失礼じゃないですか。（発言する者あり）私もね……

○議長（杉原豊喜君）

何で失礼ですか。

○24番（谷口攝久君）（続）

これ一般質問ですよ。このことで、教育の中でですね、そういう感性とか、そういうものについては、教育の中でどういう取り上げ方をしているかっていうことを聞いているわけですから……（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○24番（谷口攝久君）（続）

そういうことですね、私が思うのはですね……

○議長（杉原豊喜君）

一般質問を続けてください。

○24番（谷口攝久君）（続）

思うのはですね……（発言する者あり） こういうふうな、いわゆる取り上げ方、私はね、素晴らしいと思います。武雄市の教育の中には、武雄の先生ですから、こういうふうな、いわゆるものを大事にし、小さい命をいたわる気持ち、こういう気持ちがある子どもたちをですよ、本当にこう育ててもらっている教育の中で、現場でしていただいているということをね、私は感謝しているわけですよ。そのことなんですね、聞きたいのは。

そうするとですね、結局、きょうの新聞にもですね、例えば、もういじめとかなんとかが非常に多いと。しかも、新学期に多いとか、いろいろなことが新聞で書かれておりました。そういうふうな問題の中で、そういう教育のあり方っていうか、ものの考え方っていうものについてですね、どういうふうなものかということね、教育委員会にお尋ねしてるわけです。教育の内容についてはどういうことを果たすかちゅうことをね。

私、これとこれを聞きたいっていうことをね、言おうと思って用意してたんです。ところがね、市長が絶対聞き取りに行くなかって言っているから、みんな来れないでおるわけですよ。（発言する者あり）

私はこういう議論もきちんと……（発言する者あり） かみ合うように……（発言する者あり） 今までは……（発言する者あり） そういうふうにですね……（発言する者あり） そういうふうな……（発言する者あり）

私は…。

○議長（杉原豊喜君）

静かに。私語は慎んでください。

○24番（谷口攝久君）（続）

この間の議会の中でも

〔市長「ひどいね」〕

谷口議員には質問を取りに行かないように、私言いましたと。しかも泣いて……

〔市長「ひどいね」〕

泣いて、私に、市長に訴えたっていうことを、議長、議会で言ってますよね、市長は。

〔市長「そうです、そうです」〕

私ちょっとね、ずっと聞いて回ったんですよ。私がもし、そういう失礼なことをせんならお詫びせんといかんからと。誰一人として、市長に泣いて訴えた人はおりませんでした。私には。ですから……（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

議員、一般質問ですよ。

○24番（谷口攝久君）（続）

いやいや、それは一般質問でしょうもん。（発言する者あり） そういうことを……

○議長（杉原豊喜君）

一般質問と私は認めません。

○24 番（谷口攝久君）（続）

きちんとしなければね……

○議長（杉原豊喜君）

一般質問をしてください。

○24 番（谷口攝久君）（続）

きちんとしなければ……

○議長（杉原豊喜君）

こっちが質問……

○24 番（谷口攝久君）（続）

あとに進まんじやないですか。

○議長（杉原豊喜君）

静かには私がさせます。静かには私がさせますから。

○24 番（谷口攝久君）（続）

その点についてですね、教育監、一つ、武雄がですよ、こういう教育の仕方があるんだということについてどうお考えですか。感性として……

〔市長「議長」〕

市長には聞いてないですよ。教育監に聞いてるんです。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まずですね、ちょっと前提をお伺いしたいんですけども、これ、ユーストリーム等で流れていますので、これについて普通の著作権物であった場合には、出版社、そしてあなた、お名前も出されて、絵も出されていますので、当該人物あるいは保護者等に対して、これを出すという許可を取られたかどうかというのを、まずお伺いしたい。

それでもし、許可を取られているのであれば、普通のパターンだったら私のところに報告があるんですね。こういうふうに出しますっていうのは。あるいは議会には報告されたかもしれませんが。僕は、それはわかりませんが、少なくとも私のところには、一切この報告はありません。事務方からありません。

ですので、どなたに、どういう許可を、いつ取られたかっていうのをまず明らかにしてほしいし、先ほど、一部やじからもありましたけれども、これを持ってね、許可なくしてこれを出されて、実名まで挙げられて言われると、これは結構ね、重大な問題だと思いますよ。だから、これちょっと消されたほうがいいと思いますけどね、これ、ずっと……（発言する者あり）いや、と、僕も、そう——ごめんなさい、やじに応酬してすみません。私も、その子が大きくなったときに、これを見たときにね、どう思うかっていうと、非常に私は、それは危惧をせざるを得ません。

それと、かつ、私が質問取りに行くなということについては、私のところには、はっきり言ってありました。2時間も3時間も監禁されて、自分の仕事をしたいのにずっと一方的にしゃべられて、質問取りに全然なつてなかったということは、複数から私は受けています。それは、

全く——まあ認識の違いかもしれませんがね、少なくとも受けた本人は、私に怖いということを言われた。それと、本当はこういう仕事をしたいのに、この2時間も3時間も取られて、しかも1対1だったらまだしも、ずっと何人も、多くの人たちを待たせてそういうふうにされたということ、私は複数から聞いてますので、それでやむを得ず、もう谷口議員さんのところには行きたくないということの申請がありましたので、それは私はやむを得ず許可をしたということでもあります。

ただ一方で、この一般質問っていうのは非常に大切でありますので、これは、こういったことの資料については、それはちゃんと出しますと、事前に出しますということは、この議会の場でも申し上げております。ですので、それについてはちゃんと事前にね、その資料の分に、要求があった分については、きちんと事前に答えようというふうにしておりますので、いろんな言い分があるかもしれませんが、私たちとしては、やっぱり、公務が第一でありますので、そういう意味でいうと、公務を優先をさせていただいたというのが私どもの認識であります。いずれにしても、あなたの御指摘については、完全な的外れでございます。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

「的外れ」っていう的外れな答弁する人にね、これ以上の的外れな質問はされませんのでね。あえて、ある程度にしておきたいと思えますけども。

私はですね、質問するときは、本当にですね、例えば、この本を使わせてもらっていいですかと。それでそういうことについてですね、これは確かに、その子ども、4本足の鶏を書いた子どもがね、けしからんとか、難な表現だということじゃなくて、心の温かさを強調している問題ですから……（発言する者あり）それを取り上げているわけです。

そういうことで……（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○24 番（谷口攝久君）（続）

そういうことで、じゃあ、こういう教育の中で……

〔市長「出版社に許可取ってますか」〕

最近ですね、最近、いわゆるいじめとかそういう問題が出る中で、例えばですよ、この2本足の鶏やったらですね、そいぎ、もう倒れるやろんもんという子どものコメントまで入れてあります。その心の温かさが、教育の中で、いわゆる学校内でのいろんな問題の中で、どう生かしてるか、あるいは大事にされているかということ、お尋ねをしてるわけですから、これ立派な質問なわけです。（発言する者あり）そういうことですね、（発言する者あり）、何かそれをおかしいと言うのはね、この質問の意味がおわかりにならないようだったらですね、私はこれがおかしいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

谷口議員、質問を……

○24 番（谷口攝久君）（続）

丁寧に話していますから。

○議長（杉原豊喜君）

質問をしてください。

○24番（谷口攝久君）（続）

それ、質問ですよ。お答えいただけますでしょうか、そしたら。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

都合が悪いことがあろうかと思うんですけれども、私の補充的な質問にはお答えいただけないんですね。

この、ここに……

〔24番「反問でしょ」〕

呈示をするにあたって、いつ、誰に対して許可を願われられたのか、そしてその許可をきちんと裁可されたのかをまずお伺いしたい。

〔24番「何ですか、これ反問ですか。何ですか」〕

○議長（杉原豊喜君）

答えるあれがなかったら、答えなくてもいいですよ。

〔24番「いや」〕

先ほど、私もほら、議員には、そういう——したですよ。固有名詞を使うときには、十分な注意を払ってくださいと……

〔24番「はい、払ってると言いました」〕

24番谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

私は、この本を貸していただくときにですよ、このことを取り上げてよろしいでしょうか。このことについて、教育の問題ですから、子どもの、お子さんのそういう温かい心について伝えたい。

例えばですよ、これ東川登のですね、例えば3年生の、その当時のですよ、子どもさんの描かれた絵です。ところがですね、これ西川登小学校ですね。西川登にはですね、もっともつとですよ——もっともつとじゃない、それにも増してというか、一生懸命に（発言する者あり）頑張っているんじゃないかとあります。

○議長（杉原豊喜君）

静かにしてください。私語は慎んでください。

○24番（谷口攝久君）（続）

例えば、矢筈ダムができてからですね、本当、できてから、今日まで毎朝5時行ってですね、便所の掃除をしている感心な議員さんもいらっしゃるわけですよ。石橋議員さんなんかそうです。（発言する者あり）例えばですね、そういうふうな、西川登小学校の教育が、そういうふう感謝し、奉仕する気持ちをですね、教育の中で生かされたんじゃないかということ、（発言する者あり）あえてですよ、これは石橋議員から反論を受けたっていいですよ。誰が朝

5時からね、黙々と……（発言する者あり）そういうのをしますか。それは、西川登の教育がそういう形を……（発言する者あり）されたということで、私はね、そのことを申し上げている。善意として申し上げているわけです。

○議長（杉原豊喜君）

私は、ちょっと一般質問にはそぐわないと思いますので、質問をお願いします。

○24番（谷口攝久君）（続）

それはあなたの判断でしょ。

○議長（杉原豊喜君）

質問をお願いします。

○24番（谷口攝久君）（続）

質問ですよ、これは。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

いいえ、質問にはなっていません。

○24番（谷口攝久君）（続）

そういう問題についてですね、例えば……（発言する者あり）学校の教育の内容についてですね、そういうふうな、例えばいじめの問題が出たときも、本当に個々の感謝の気持ちがあればね、いじめの出ないんじゃないかなろうかという気持ちがあるわけですよ。

例えば、例でいきますよ。例えば、秋田県が例の学力テストとか、そういうものでですね、日本一だと、あるいは最高のレベルにあるんだということをよく言われます。しかし、それは、学校の先生方の指導もさることながらですよ、私が思うのはですね、秋田の人は、感謝する気持ち、礼儀、これを忘れない県民性がですね、やっぱり学力を活かせるんじゃないかなろうかという、私はそういう考え方を持っていますが、その点はどう思いますか。（発言する者あり）

何ちゅうことを言いよつと、あんたは。静かにしとけ。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長（発言する者あり）

○浦郷教育長〔登壇〕

学力については、その学力だけが向上するものではないと、家庭とか地域の力が非常に大きいということは、これまでも申してまいっております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

きょう、多くの傍聴者の方が、議員の傍聴者ではないと思いますけれども……（笑い声）お見えになってますので、これはちょっと改めて申し上げますけれども、先ほどの出版物の、ここに出すということで、いつ、誰に、どのような許可を取られたのか、ちゃんと伝えないと、議員は、あなたは議会の権威とおっしゃいましたけれども、議会そのものが、他人の出版物、あるいは著作権を、そのまま無断で使用しているというふうになりかねませんので、ここは、その疑念を晴らすためにも、いつ、どこで、誰に対してその許可を取られたのか、はっきり明示をしていただければ、私たちとしてもね、さらに議員を信頼するよすがになりますので、お

伝え願えればありがたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

私はね、あえて言う気はないです。（発言する者あり）しかし議会のそういう立場をですね、考えてはっきり申し上げますけども、（発言する者あり）これはですね、教育の問題について、いろいろ話をしましたときに、私は、これは作者の渡辺先生のところに1回お伺いしまして、この4本足のニワトリの本は、いつか図書館のある場所で見ただけども、今、手元がないから、それを見せてほしいと、貸してほしいということを私は申し上げた上でね……（発言する者あり）これ、スイッチ入ってないですか。この本をですね、貸していただきまして、大事に持ってきて、きょうの議会で発表してるわけですよ。

〔市長「それを出していいって許可は取られたんですかね」〕

私が、許可を受けんですると思いますか。失礼な。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

〔24 番「失礼な話」〕

樋渡市長

〔24 番「そんなことはしませんよ、私。なんかこう人を疑わんといかんような性格、かわいそうですね、本当」〕

○樋渡市長〔登壇〕

いや、私はあなたが固有名詞を出されてまでされるからね。これ、出された本人が、本当にあれですよ、今、どう思われているかっていうことを考えたときに、私はちょっとこれね、本当に、この場で、これちょっと消されたほうがいいと思いますよ。ちょっと、私、答弁中ですので、これ消してくださいよ、ちょっと。

〔24 番「何ですか」〕

私の答弁中ですから。

ですので、もう1回、改めて聞きますけれども、これね、本には必ず著作権がございます。著作権がある。日本の場合は、複合著作権、隣接著作権というのがあって、実際、その著作物を出すときには、その出版社に対して、許可を得なければいけません。さらに、個別のものを出すときには、個別の、例えばこの場合だったら、絵を描いた御本人、絵の描いた御本人がまだ小っちゃいときについては、保護者の許可を得なければいけません。それがルールなんですよ。

これを答える必要がないということは、これは当然、これ多くの方々が御覧になってますし、きょう、傍聴の方々も次の上野さんだと思いますけれども、来られていますけれども、そういった方々は皆さん、あ、これは無断で言えないもんだから、無断でっていう、僕は類推が成り立つというふうに、私自身はそのように思っています。これは無断使用だっていうふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

先ほど、私が固有名詞を使ったりするときには注意をしてと。

[24 番「はい」]

それは著作権等にも関係しますので、そこら辺も注意ということで、十分今後も配慮をいただきたいと。

市長、これで議事を次に進めます……

[24 番「いや、ちょっと待ってください、議長」]

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

議会の、議員としての形式の問題を取られますから、私……

○議長（杉原豊喜君）

次の質問に移ってください。

○24 番（谷口攝久君）（続）

いやいや……

○議長（杉原豊喜君）

もう終わりましたから。

○24 番（谷口攝久君）（続）

大事な、これは、確認したからでしょ。

私はですね、いつもそうです。現場主義です。必ず現場に行って、確認をして。そうじゃないと質問絶対してませんよ、今まで。何十年議員をしていますか。

全部必ず行って、このこともですよ、わざわざ行って、私は持っていないから本を貸してくださいと、それでよろしいですかとって申し上げた上で、借りてきて、このことを紹介してですね、話をしているわけですよ。だから市長が信じ切らんというのは、自分が……

○議長（杉原豊喜君）

もうそれはやめてください。

○24 番（谷口攝久君）（続）

いやいや、いいじゃないですか。まあ、そういうことです。ただね、そのことだけははっきり申し上げときますよ。天地神明にかけてね、これは、自分で勝手に持ってきて話したんじゃないですよ。それぐらいのことはね、私も長年議員をやらせてもらって、それだけの覚悟はきちんとしてやりますよ。だから議長ね、そういう失礼なことはね、注意しなさいよ。

○議長（杉原豊喜君）

私が議員には言ってるんですよ。配慮をしてくださいと。これから……

[24 番「配慮してます」]

そういうときには配慮して。

ですから、次の質問に移ってください。

[24 番「はい、移りますよ」]

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）（続）

きのう、おとといの新聞ですか。武雄市図書館は飲食店だという記事で、えらく市長がね、一つ、不愉快だというふうなことで、学校現場に申し入れられたかどうかは知りませんが、訂正になったと。

しかしですよ、私はちょっと、私5時の時間帯に図書館には、私、いたことはあまりありませんけども、耳のせいでしょうかね。図書館で、例えばですよ、教育長にお尋ねしますが、図書館で5時になったらですよ、もう5時になりましたと。おうちに帰りましょうということを放送してますかね。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

児童生徒の皆さんに対しましては、防災行政無線を使いまして、冬場にはですね、5時。それから、夏場は6時ということで、帰宅を促しているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほど、青陵中に対して、「申し入れがあったかどうか知りませんが」っていうことをおっしゃったんですけども、これについては申し入れはしておりません。

私は、一般質問でお話をして、一般質問の後に、記者さんから、ユーストリームをご覧になられた記者さんから取材に応じ、かつ、その日に自分の考え方を——まあこれ、かなりやっぱり報道されるっていうのがわかりましたので、自分の考えをブログにと、それ、フェイスブックにまとめました。

したがって、直接、例えば、校長さんのところに出向いて、あるいは校長さんをお呼びして、この青陵中が出した方針について、申し述べたつもりもありませんし、それを押しつけたつもりもありません。私は、一人の政治家として、武雄市図書館に関するものとしてね、こういうことに、青陵中が旧来おっしゃっていたことについて、異議を唱えたに過ぎません。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

夏場は6時、冬は5時と。たしかにね、あのチャイムでね、帰る時間はチャイム鳴ってますけども、今、教育部長の答弁だと、そういうことで図書館でも、例えばですよ、その時間になると、今5時になりましたと、子ども一人で来てる人はお帰りくださいという放送をしている、教育施設ですよ、図書館はね。娯楽施設じゃないでしょ。そこらはどうなっているんですか。もう一遍ちょっと聞かせてください。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

児童生徒に対しましてはですね、一般的な指導といたしまして、早めにですね、帰宅をお願いしていると。いったん学校から帰宅をした上で、図書館なりに行くということは、これは保

護者の責任においてやっていただいているというふうに理解をいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

図書館を悪の権化みたいに思ってくださいることについてはもう慣れましたけれども、一般的に言って、サイレン、これ防災無線の、先ほどありましたように、防災無線を活用して、この季節だと夕方5時にもう帰りましょうということを、少なくとも武雄町の私どもが住むエリアでは、毎日流されていますので、そういう意味で先ほど部長からありましたように、一般的に暗くなる前には帰りましょうということ。

これ、だから、図書館だからといって、あるいは図書館じゃないからといって、申し上げているというのはないですので、その点はぜひ、御留意をしていただきたいと思います。

ぜひ前向きな議論をお願いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

私、後ろ向きの議論しているような感じを受けるような答弁しかなさらんけどね。これこそ前向きですよ。

本当にですね、やっぱり子どもたちが一生懸命勉強して、図書館でいろんなものを学んで、そしてですね、やっぱり、時間になると帰ってくる。図書館に子ども預けるというのは、安心している親いっぱいですよ。図書館に行ってくると言ったら、行っておいでとみんな言ってますよ。うちの子どもたちも図書館行くと行ったら、行っておいでと言っていましたよ。私も子どもを持つ親ですからね、そう言っていましたよ。だから、なにも後ろ向きな考え方で図書館を言っているというのは毛頭ありませんよ。

ただ問題はね、そういうときに、もう本に夢中になって、帰る時間を忘れてしまうということもあるかもわかりません。しかし、そこはね、単に本を読む場所だけでなく、飲食も伴う場所であるということを青陵中学等も心配して、そういうようなことを通達をしたんでしょう。

しかし、それはそれとして、別の問題としてですね、私はそういう図書館あたりも、本当言うところです、その時間になると、5時になりましたというチャイムを鳴らしてもですね、例えば一つも、教育とか、それから来館者にですよ、迷惑をかかえることはないわけですから、そういうことについては、図書館を委託したならですね、それなら教育委員会としても、そういうことについては、やっぱり、市のほかのところでチャイムを鳴らしたりするのならね、図書館という子どもがいっぱいおる場所には、なおのこと、そういうところをするのもね、これも教育的な配慮であり、そういうふうな青少年の非行防止とか、いろんな問題については大事なことじゃないかと思うからね、それを聞いているわけですよ。どうですか、教育部長。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

先ほど、お答えしたとおりでございますけれども、まず学校からですね、帰宅をするという

ことで指導をいたしているところでございまして、図書館等の施設を利用するという事は、これはまた、結構なことだというふうに思いますので、そこら辺は保護者の責任においてやっていただいているというのが実情であるというふうに、先ほど申し上げたとおりでございます。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

青陵中学とかほかの武雄高校、中学校、高校関係がですね、そういうふうに、その子どもたちのそういうふうな時間外の問題について、いわゆる被害に遭わないように、あるいは何か起こさないかという心配、親心、あるいは教育的配慮から時間は何時ぐらいまでということ言っているとすればね、ただお任せしますって、親もわかっていますよ、それくらい。

しかし、気付かんで一生懸命本に夢中になるときはね、わかりませんから時間なんか、暗くなるのを忘れて読み、子どもたち本読んでるわけですから。やっぱりそれならばね、教育施設の一つである図書館だって、一口、教えてやるぐらいのことをね、別にお金がかかるわけでもなし、迷惑がかかるわけでもないわけですから、そういうことも大事じゃないかということですね、私は申し上げてるわけですよ。

それは、答弁じゃないですもんね、今のは。どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

教育部長。あの答弁、答え一緒ですか。

〔教育部長「はい、一緒です」〕

一緒ですか。

〔24 番「何で一緒。」〕

同じ質問で、答弁が一緒の場合は、3 回までが質疑となっておりますので……（笑い声）方向を変えて質問をお願いします。

〔24 番「きちんと答弁させて、してもらってくださいよ」〕

答弁一緒と言っているんです。ここは。

〔24 番「一緒って、一緒なら一緒と言わんですか、そんなら」〕

それが3 回までとなっております。

〔24 番「教育長に聞いてるんですよ、私は」〕

〔樋渡市長「議長、答弁」〕

〔24 番「市長には聞いてないから」〕

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

先ほど、お答えしたとおりでございます。

〔24 番「3 回まででしょ、もう1 回」〕

○議長（杉原豊喜君）

だいたい、町村議会は3 回まで。市議会は2 回までとなっております。それを私は、特に議長が認めるときがありますので、それで今許可した分です。

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

私が言うのは、違う問題で、違う角度からお尋ねしますけども、例えばですよ、いつかテレビやネットとか、図書館問題にいろいろ書いてあるのを紹介しました。

今、飲食を伴う施設があると。確かにそう、それは間違いないですね。楽しいですからね。私が行ったときはよその子どもがおりましたから、ごちそうしてやったということもありますよ。でもそういうときにですね、やっぱり、お金を持っていない子どもたちはですね、本当にやっぱり寂しいだろうと思うんですよ。小遣い持たせて図書館にやりませんもんね、普通の家は。そういうときはですよ、やっぱり教育的な配慮というのはどういうところにあるんだろうかなという気がしてなりません。

私が今、申し上げたいのはですね、いわゆる歴史資料の問題について、例えば武雄の研究会の人たちがですね、どういう研究発表、努力をされているかということですね、この機会に、やっぱり御披露申し上げたいと思うんですよ。

例えばですよ、時間十分ありますから。例えばですよ……

頭に入れといてください。皆さんお聞きいただいているからですね。

例えば、一つの、武雄後藤家でしたから、後藤家歴代の事跡。その次はですね、山下さんという方は黒髪山ですね、山内の黒髪山と住吉城についてのレポート。それから資料としてはですよ、今泉さんはお日記草書。それから、名前はちょっと言いませんけども、武雄地区における陶磁器の製造についての歴史的なもの。それから、えんの長者の像。今、分割民営化と言うけれども、鉄道は民営化で始まったんじゃないかというレポート。そういうものですね。それから昔話。荒踊と殿様について、こういうレポートをですね、歴史研究会の人は発表してあるわけです。

そういうのもですね、図書館・資料館できあがっていったるわけですね。それから後藤家歴代の事跡、武雄領伝承記、これ主張がですね、日本で最初に行われたんだということですね、この間佐賀新聞と一緒にですね、私は、自分は武雄が一番だということのレポートを書いて出しました。

それで、それに対する返信といいますか、確かに武雄が最初だろうということを一——いう気がするということも、有明抄で発表がありました。そういうふうな問題等についてもですね、武雄の歴史研究会がああ蘭学館を中心にやってきた、ずっと実績があるわけですよ。せっかく時間ですから、一緒に読み上げておきましょう。

江戸詰め、江戸証人とかね、柳生十兵衛は八兵衛ではないのかとか。あるいは中村涼庵。さっき出てきましたね。田代酒造跡、あの酒屋の問題。実はお酒、酒屋さんの跡を片付けた問題だけしか今出てきてませんけども、実は、長崎街道の中にはですね、あの田代酒造の跡の真ん前に中村涼庵さんのいわゆる居宅があるわけですよ。そういうですね、歴史的な背景の中での、あのいわゆる、何ですか、田代酒造跡の問題があったということですね、全然——別に田代酒造跡の問題だけとして、取り上げているから、私はね、こういう歴史的な本を読んで、あるいはおわかり頂けたのになという気はしてます。

それからですね、小楠の遺跡、梶原遺跡の調査。

お祭り風土記。武雄町と市の誕生、風土はどこに違いがあるかということ。それからですね、

紀州・蓮池、島田十兵衛羽州では、俗に出征日記。これは武雄がですよ、戊辰戦争で出兵したときに、いろんな記録がですね、武雄、北方、山内いろんなところから参戦しているわけですが、そういう歴史的な記録をですよ、(発言する者あり)、みんな丹念に、武雄のそれぞれの方々がやっていたらしゃる。そういう記録があるんですよ。葉隠にみるお家騒動の顛末ときたらですね、自尽の悲劇、河原蟠平。羽州戦、戦争の戦死者の滝次郎さんについてのレポートもあります。

樋口泉兵衛さん。あそこにお墓もありますけども、樋口泉兵衛さんの問題についてのレポート。それからですね、住吉城の中である伊万里屋敷の問題ですね。そういったような、多久と武雄の関係とかですね、立野元定の戊辰戦争一揆の記録とか、そういうもろもろのですね、ことが記録があります。

これですね、30 ページ近くありますから、全部読むとこれで1時間かかりますので、あえてこの程度にしますけども、こういうものをですね、みんな、武雄の皆さん方が一緒に研究し、発表し、そして著作し、そして市民の方々に伝えようとしたところがね、武雄のいわゆる歴史資料館であり、伝承館であったわけですよ。

それを私は、いまだに何度もしつこいようですけども、あれを5年後に、いわゆる返してもらってですね。契約ですから、5年間はしょうがないですよ。でも、返してもらって、本当に武雄の人たちが、そういうですね、学問の中心としての場所になれないだろうかということを、今思っているから、あえてしている。市長はないと、そういう考えはないとおっしゃいましたから、5年後に市長をしてらっしゃればね、まだ考え方は、してなければ変わるでしょうから。そういうような気がします。

○議長(杉原豊喜君)

議員、質問をしてください。質問をお願いします。

○24番(谷口攝久君)(続)

この中で、それでは質問しますけども。(発言する者あり) いやいや。黒髪城とですね、住吉城についてのレポートはありますけども、黒髪と住吉城の関係は文化課のほうで何か説明できますか。

○議長(杉原豊喜君)

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱり失礼だと思っんですよ。市長をね、5年間続けてればね、何とかというのは、およそ一般質問でおっしゃるような話ではないと思っんですよね。それはもう、いみじくも有権者が決める話を、わざわざこの市政の一般質問事務で出されるというのは、僕はね、これは議員の、本当、風上にも置けないと思っんですし、あえて言えば、議員の資格も僕はないと思っんです。

それを私が痛感したのは、先ほどのあなたの一般質問の中で、重大なことをおっしゃった。図書館で、よその子どもにごちそうしたということをおっしゃったんですけども、これ広く捉えれば、私たちがもっともやってはいけない公職選挙法第221条……(笑い声) いや、すいません。笑い事じゃないですよ。

広い意味で言うと、公職選挙法の私たちが一番守らなければいけない、公職選挙法の第221

条の買収って、これ我々暗記してるじゃないですか。それを議会の場でおっしゃるという、この見識のなさということには、はなはだ私も——いや、人様の見識をね、言うのは、私もいかがかとは思いますが、いかがかとは思いますが、やっぱりね、言っていることと悪いことと、していいことと、して悪いことがあるんですよ。それをダブルでおっしゃったということは、宮本栄八議員がね、上水道と下水道でダブルパンチだとおっしゃいましたけど、こっちのほうがよっぽどダブルパンチで、これこそが、政治家、あるいは武雄市議会の権威、品位を著しくおとしめる発言だと思いますし、重ねて——笑い事じゃないですよ、議員。笑い事じゃないです。ポケットに手を突っ込んでる場合でもないです。

[24番「ここ組んでますよ」]

あ、すいません、ちょっと緊張しまして。

ですので、そういうことからして、やはりね、本当にこうやって政治家っていうのは、僕は7年しかたってませんけれど、7年ちょっとしかたってませんが、こうやって信頼というのはなくなっていくんだなということを思いましたので、いい反面教師にさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

先ほどの答弁。

[24番「答弁してください」]

古賀教育部長（発言する者あり）

○古賀教育部長〔登壇〕

先ほど、展示の関係です、御質問がございました。

展示につきましては、従来からですね、蘭学館、それから企画展示室を使いまして、展示をやってきたわけです。

もう1つですね、大事な歴史資料館の役割としましては、保存というのがございます。これは特別収蔵庫、それから一般収蔵庫を使って、今もきちんと、保存をしているということになります。

それから、展示ですけれども、これも市長からございましたとおり、企画展示という形でですね、本年度始めておきまして、先ほど御紹介ございました九州国立博物館におきまして、武雄蘭学の軌跡ということで、4月から7月までやっているということでございまして、今年の展示、企画展示について御説明をさせていただきますと、4月1日から6月2日にかけては、武雄鍋島の蘭学ということで展示をいたしております。

それから7月13日から8月15日までは武雄鍋島家、温泉、焼き物という展示をいたしております。さらには10月5日から11月10日までは、武雄に残る絵図展というのをやっております。

それから、これからは棟方志功展を挟みまして、特別企画展ということで、来年の2月1日から3月16日にかけては、九州の蘭学、武雄の蘭学という、本物を見せるですね、展示をやるということで考えております。

繰り返しになりますけれども、旧蘭学館につきましては、レプリカを中心にですね、展示をさせていただいたということでございますので、今後ですね、本物を中心に見ていただくということで、取り組みを進めてまいりたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

なぜレプリカを中心に展示されたかということ、あなたよく御存じで説明されたんですか。確かにね、レプリカしか展示できないところもあったんですよ。それはそうですよ。そうせんとね、例えば温度差とか、そういうものによってずいぶん痛むんですよ。歴史資料の取り扱いについて専門家はそういう言い方ですよ、本物は展示してなかったかというのはおかしいじゃないですかね。私はそう思いますよ。私もそれほど専門家じゃございませんけども、本当にですよ、もう指で、指の形だけつけても、いわゆる、そのものが、歴史資料がですね、だめになることだってあるんですから、慎重に慎重にですね、やっております。

ですから、必ずしも本物だけじゃなくて、レプリカしか展示できない場合もあるんですよ。それはそれとしてですよ、本物あるわけですから。レプリカということは、レプリカしかないじゃないんです。あるんですから、いつでも必要な学術的なことは応じられるということですね。

それから、先ほど市長がおっしゃいました。公職選挙法でいかんなら言ってください。武雄のどこの子どもにもあんなにはしてはしてないですからね。いつでも受けて立ちますよ。

私はね、ついついよそから来た人を大事にします。きょうも韓国からのお客さんをお招きしていますから、宇宙学館にも行ってもらいました。それくらいにですね、武雄のことを、よその人に、韓国の人にも私は情報発信しますし、武雄に来てくださいと、観光協会の役割も私は個人としても果たしているつもりでいますよ。

ですから、私が横でジュースを飲んで、その子どもらが、一人二人よそから来てましたけども、その子どもたちがかわいそうですから、よかったらと言って一口飲んでもらったということが、何で選挙違反ですか。おかしくてたまりませんね。

しかしですね、なんかきょうのですね、かみ合わないような論議はですね、これ以上あまりしたくありません。しかし、大事なことがありますから、あと 15 分もいただいておりますので、みっちりやりましょう、そしたらですね。

そしたらですよ。武雄鍋島の蘭学についてですよ。今の、社会的な評価というんですかね。そういうのは、どういうふうなものがあるんですか。収蔵品に対して。

○議長（杉原豊喜君）

谷口議員。もう 1 回、質問、今の。もう 1 回、すみません。

ちょっと、どういう収蔵物があるんですかと言われたんですかね、今。

○24 番（谷口攝久君）（続）

私、収蔵物は言っていないですよ。

どういふですね、歴史的な、あるいはそういうふうなものの評価をするかという話をしているんです。(発言する者あり)それなら言いやすいでしょ。収蔵の中身はみんな言えんですから。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

御質問の趣旨がですね、よくわからなかった点がございます。

ただ、蘭学について、社会的にどのような評価を受けているかというようなことで受け止めさせていただきますと、武雄の蘭学というのは、超一級の資料だというふうに思っております。したがって、その超一級の歴史資料をですね、きちんと保存をしていくというのが、私たちの責任ではないかというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

今ね、うれしいことを言ってくれましたね。まだ嬉しいことだけど、当然のことですよ。武雄としては。

だから、超一級の資料。またはですね、いわゆる、全国の専門的な方々からも、非常にですね、評価の高いものです。例えば、先ほどずっと読んでましたけれども、その中にですよ、例えば、鍋島さん、後藤家の買い物控えとか、そういうのありますけども、その中にいろんなものですね、きちっと入っているわけですよ。

そういうふうなものについての考え方はどうですか。それも資料の一つですけども。それをですね、例えば今、世の中に出したとすればですね、これはもう大変な、みんなの垂涎の的ですよね。そう感じが私はいたしますけどもね。教育長、どう思いますか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

ちょっと評論家的になってしまうかもわかりませんが。

図書館がこれだけ市民の皆さんの指示を得て、あるいは全国から注目されるような変革ができたというふうに思っております。

片方で、市長も先ほど来、歴史文化への理解も示しておられますし、私どもは其中で、この図書館の意義ある改革をさらに充実させること。

そして、片方ではですね、これまでも述べてきましたけれども、歴史的な文化、あるいはその遺物、いろんなものを大事にするのはもちろん大事だけれども、私どもはそういう昔の先人の心を学んで、それに匹敵するようなことをやっていこうじゃないかというのが、1つが図書館だったと思うんです。

そういう意味で、今のお話を聞きますとですね、それぞれの物は大事にしないといけない。それ以上の気持ちでやっていこうと、そういうことを考えております。

○議長（杉原豊喜君）

24 番谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

教育長、立派にお答えいただくじゃないですか。

そういう気持ちをですね、やっぱり教育委員会だけではなくて、私が言うのはですよ、執行部全体、市長にも持ってほしいですね、そんな感じですよ。私の気持ち。次に行きます。

これ、水飲み場があります。これ、何歳ぐらいの子どもまで飲めるんですか。

私はですよ、例えば前の議会でも取り上げましたように、図書館・歴史資料館に行ったときにですね、やっぱり、有料のものしかないもんですから、のどが渴いて、水を飲みたくても飲めなかったんですよ。だから水飲み場、今まであったのをきちんと設置してほしいと。ところがですね、なんかこう、何ですか、遠慮してあるんでしょうかね。なんかコーヒー屋さんにかどうか知りませんが。私は別として、こういう水飲み場をきちっとしてほしい。

例えばですよ、じゃあこれは、足で踏むとですね、小さい子どもは飛び上がって、これは鼻に水が入るんですよ。そしてね、床いっぱい濡れているんですよ。私は見かねてね、私が拭きますからふきんを貸してくださいと言いました、図書館に行って、「いや、それは自分でします」ということで。

〔市長「嘘ばかり」〕

嘘ばかりって、何を言うんですか。私……（発言する者あり）嘘言いませんよ。

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

〔市長「嘘ばかり」〕

静かに。

○12番（谷口攝久君）（続）

それを申しました。

○議長（杉原豊喜君）

私語は慎んで。

○12番（谷口攝久君）（続）

ところがね……

〔市長「嘘ばかり」〕

そういうことですから……

〔市長「嘘ばかり」〕

本当にですね、子どもたちも飲めるようにしてほしいと……（発言する者あり）

もう1つはですね、申し上げますけども、例えば同じ水を出すならですね、例えば嬉野に行きます、嬉野市役所。この前、一般質問を聞きに行きました。そのときにですね、入り口にはですよ、嬉野茶ボタンを押すと、嬉野茶、出てきて飲めるようにあります。武雄の名産は、嬉野茶なければですよ、レモングラスだっていいじゃないですか。本当にちょっとボタンを押したら飲めるように、そういうのもね、武雄を知らせるいい機会なんですよ。

それで私はね、そういう状況ですけども、これは小さい子どもたちが飲めるような——ないんですよ。ですから、それがなければ、どこかに寄付してもらったっていいじゃないですか。私は、言うのはね、せつかくするならば、そういうふうみんなが利用しやすいように、しかも安心して飲めるようなですね、そういうふうな思いやりある図書館であってほしいということをお願いしております。時間ですから、質問を終わります。